



▲埼玉・東京・千葉・栃木・茨城から32チームが集結した『YOSAKOI in さやフェス』。地元・狭山ヶ丘で結成されたチーム「結心」がトップバッターで会場を盛り上げました。今年も狭山ヶ丘駅開設100年にあたり、記念の展示も行われました。9月21日(祝)狭山ヶ丘駅東口・とくろざわ自動車学校(写真:市民カメラマン・八木豪彦)

みんなのひろば



▲毎年10月の第2土曜日に、瑞岩寺で行われる所沢市指定無形民俗文化財「岩崎獅子舞」。獅子頭をかぶった3人の舞手が腹の太鼓を打ちながら舞い踊ります。400年の時を越えて伝わる舞に、観客は目が釘付けになっていました。

10月10日(出)瑞岩寺(山口)
(写真:市民カメラマン・浅見司郎)

スマホで動画！

アプリでARのある写真を写すと動画が見られます。詳細は市HP(「AR」で検索)へ



▲所沢の秋といえば、やはり『とくろざわまつり』。今年は5年に1度の大祭で、10月10日(出)の前日祭を含む2日間開催となりました。11日(日)の本祭では、昨年より2基多い12基の山車が曳き廻され、集まった観客はその迫力に圧倒されました。

10月11日(日)中心市街地
(写真:市民カメラマン・中村 仁)



▲トラック、跳躍、投てき競技と数多くの種目が行われた『第16回所沢市陸上競技選手権大会』。午前中はあいにくの雨でしたが、午後には晴れ間ものぞきました。大きな歓声を背に、選手は日ごろの成果を出そうと躍動しました。

10月11日(日)早稲田大学織田幹雄記念陸上競技場(三ヶ島)
(写真:市民カメラマン・三平資郎)

突撃! ライオンズ特派員!

ライオンズ 90th Anniversary ©SEIBU Lions

今回の市民レポーター!

泉町在住の馬場利香さん・信之介くん親子です。息子に身近なライオンズのことを知って、野球を好きになってもらいたい!



今回の突撃先!

岡村隆剛ライオンズジュニア監督

1980年ドラフト2位で指名され、外野手として活躍。1980年代の黄金期を支えたライオンズOB。引退後は、ライオンズジュニアアカデミーなど少年野球の育成に力を注いでいる。

インタビュー「岡村流の野球指導とは?」

この日のライオンズジュニアの練習会場だった西武プリンスドームでお話を伺いました。子どもたちの指導をする中で心掛けていることを聞くと、「気を使いますが、あえて厳しい言葉をかけて壁に直面させます。そうすることで、自分で考えるようになり、さらなる成長につながります」とのこと。昔に比べると子どもに優しくすることが多い時代なので、厳しく接することこそが自分の役目だとお考えでした。選手時代は所沢に住んでいて、所沢で食事をする機会も多かったとか。黄金期は『優勝が当たり前』というプレッシャーが強かったそうです。清原和博元選手が新人の時、一緒にバッティング練習をしてパワーに圧倒された思い出なども話してくれました。



▲熱の入った指導です!

レポートを終えて

現役選手とは一味違った内容がたくさん聞いて勉強になりました。岡村監督の子どもたちへの熱意が伝わってきて、息子に野球をやってほしいという思いが強くなりました!

商業観光課 ☎2998-9155

はっぴとくろ 野老っ子



彼女は二つの「普通」を知っている。車いすに乗る現在(障害者)の「普通」とケガをする前(健常者)の「普通」だ。どちらが正しい、間違っているということはない。「互いを知ろうとする、関わろうとする」ことが大事です。

田中愛美さんは大学1年生の19歳、5年後の東京パラリンピック出場を目指す車いすテニスプレーヤー(ケイアイスター不動産所属)だ。日本ランキングは5位(10月4日現在・シングルス)で、上位8人で争われる、車いすテニスの国内最高峰「マスターズ」(11月13日~15日)への出場が決まっている。「日本のトップを倒してパラリンピック代表になりたい」。初挑戦のマスターズは、目標との距離を測る試金石だ。

これまでの道のりは、決して平坦ではなかった。高校1年生の冬、階段から転落し、腰の骨を折る大ケガを負う。車いす生活となった。生まれつきの障害ではないため、喪失感がついて回った。「なんでこんな簡単なことができないのだろう」。

テニス部に所属していたこともあり、主治医からスポーツリハビリを勧められたのが転機となった。「大好きな部活に復帰したい」という気持ちがエンジンになり、猛練習も苦にならなかった。車いすテニ

所沢から東京2020パラリンピックへ!

田中 愛美さん(緑町在住)

ス始めてわずか2年だが、マスターズに出場できるほどに上達した。「ケガをして、『ありがとう』と言うことが増えました」と明るく笑う。生活の中でサポートが必要になる分だけ、多くの人と関わることになる。感謝の気持ちは、きちんと人と向き合い、人を大切にすることが大事だった。「一人じゃない。全てを自分一人で行うとしなくてもいい」。そう思うようになり、人として成長できた気がしたという。彼女の強さの原点はここにあるのかもしれない。

障害者スポーツの普及が田中さんのもう一つの目標だ。スポーツは、どうしても運動不足になりがちな障害者にこそ必要だという。体を動かすことで内臓が動き、体内の循環が良くなる。そしてスポーツの楽しさは、心を動かす。

社会が健常者の「普通」ばかりで作られていないか、見つめ直してみよう。障害者スポーツの環境や機会を整えるには、障害者と健常者が互いを知り、関わるのが不可欠だ。障害者スポーツが、そしてスポーツを分け隔てなく一緒に楽しむことが「普通」になればいい。

「普通」はきっと、変えられる。



AR

味のこころ

和ケ原 田中 隆清

営業回りで、国道4号線を北上していた40年前のことだ。その日は仙台に泊まることになったが、あいにく宿は混み合い、外食することになった。宿に地元の秋刀魚料理屋を紹介してもらい、町に繰り出した。たどり着いた店内は、地元の方らしき人たちが混雑していた。どうやら秋刀魚の刺身が人気らしく、すぐに自分も注文してみた。出された刺身は、小骨がきれいに処理されていて、コリコリとした食感でとてもうまかったのを覚えている。

秋刀魚の塩焼きも注文したが、これは踊るように串に刺した新鮮な秋刀魚に塩を振り、炭火で焼いたものだった。新鮮な秋刀魚はさらさらとした味が、とうとうまってきた。私はすっかり味のとりこになってしまった。「新鮮さはうま味を引き立たせる」と実感できる体験をさせてもらい、秋刀魚に大満足した思い出だ。

誰のハートの秋の主役

◆テーマ「秋刀魚」◆

曼珠沙華の花よりも、秋刀魚に秋を感じる。スーパリーの魚売り場に、発泡スチロールの中に氷詰めされた秋刀魚が並ぶようになると「ああ秋だなあ」と思う。秋刀魚が魚売りの主役に躍り出て、活気づく。

私は秋刀魚を焼くのが大好きだ。焼きたてに大根おろしをたっぷり添え、スタチを絞って、熱いうちにしょうゆをかける。1匹の秋刀魚にこれほどの脇役がつけば秋刀魚も本領発揮。高額なステーキに勝るとも劣らない。

最近近隣諸国に秋刀魚を先捕りされ、あふれんばかりの秋刀魚がスーパーに並ぶことには、ほんのりとした危機感を感じている。秋刀魚を見ると、ちよびり寂しい思いがする。

地域の特 やっぱり自治会・町内会でしょ! 18

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

三ヶ島第九区自治会

～普段の活動が自治会のチカラ～ 三ヶ島第九区自治会

三ヶ島第九区自治会は所沢市の西部に位置しています。北側の国道沿いには住宅が立ち並び、南側には多くの自然が残る地域です。もともとは三ヶ島第三区と一つの自治会でしたが、会員数が増加したことで昭和40年代に分離し、現在は約950世帯で活動しています。

三ヶ島地区は市内でも高齢化率が高く、第九区自治会も例外ではありません。加入世帯の約半分に70歳以上の高齢者が居住しているため、見守り活動に力を入れています。役員が中心となって、日々のあいさつや家屋の点検確認などを行います。「押しつけにならないよう、日常のさりげない見守りを意識しています」と横溝哲夫区長は語ってくれました。定期的な情報交換会を開催し、自治会内はもちろん、社会福祉協議会や民生委員の方とも見守り活動の結果を情報共有し、誰もが安心して暮らせる地域を目指しています。

また、防災訓練の一環として、小学生対象の炊き出し訓練を行っています。もちろん非常時への対策として行っているのですが、小学生にとっては楽しい行事の一つです。林小学校と三ヶ島小学校の児童が交流を深める場であり、サポート役の親も含めた世代を越えたコミュニケーションの場でもあります。

横溝区長は「この他、夏祭りや年末の餅つき大会などさまざまな行事を行っていますが、他の自治会にない『特別な事』をしようとは思いません。特別な事をするよりも、普段の活動を続けていく仕組みを作ることが大事なのです」と力強く話してくれました。



小学生の炊き出し訓練

「次回は新所沢地区のけやき台町会を紹介します。」
地域づくり推進課 ☎2998-9083